令和２年度 第１回千代田区地球温暖化対策推進懇談会検討部会

議事要旨

【開催概要】

１　開催日時
　令和２年７月 31 日（金）10 時～12 時
２　開催方法
　ＷＥＢ会議
３　出席委員（７名）
　吉田委員（部会長）、三坂委員（副部会長）、岡委員、岡安委員、西田委員、本田委員、増田委員
４　欠席委員（０名）
５　オブザーバー（０名）　※ＷＥＢ会議形式のため、会議終了後に議事内容を報告
６　事務局（７名）
　夏目環境政策課長、仲澤企画調査係長、大坪事業推進係長、只野公害指導係長、落合エネルギー対策係長、企画調査係 伊東・山浦

【 次　第 】

１　開　会
２　議　題
（１）「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015」の改定について
（２）（仮称）「千代田区気候変動適応計画」の策定について
（３）その他
３　閉　会

【配付資料】

① 次第
② 委員名簿
③ 議題の論点
④ （資料１）千代田区地球温暖化対策推進懇談会検討部会の今後のスケジュール
⑤ （資料２）「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015」の改定について
⑥ （資料３）（仮称）「千代田区気候変動適応計画」における将来像・基本的な考え方・施策体系等について
⑦ （参考資料１）令和元年度　地球温暖化対策の検証（概要）
⑧ （参考資料２）令和元年度　気候変動適応に関する検討（概要）
⑨ （参考資料３）千代田区地球温暖化対策の取組みに関する検証（確定版）
⑩ （参考資料４）ＣＯ２排出量の将来推計
⑪ （参考資料５）千代田区における気候変動の長期変化と将来予測について
⑫ （参考資料６）事業者へのヒアリングの実施について
⑬ （参考資料７）令和２年度第１回千代田区地球温暖化対策推進懇談会における意見・質問と対応

【議事要旨】

１　開　会

２　議　題

◇事務局（夏目環境政策課長）

・今年度は５回程度の検討部会を開催し、ご意見をいただいてまいりたい。

・緩和策の計画と適応策の計画は別で策定し、二本立てを前提としたい。なお、成果物として冊子をどのような形にするかは別途検討する。

（１）「千代田区地球温暖化対策地域推進計画 2015」の改定について

◇事務局（夏目環境政策課長）

・昨年度は地球温暖化対策の取組みや条例に掲げた目標の達成状況等を検証した。その結果、取組みの強化等を検討し、今年度末に向けて現行計画の見直しを行うとの結論になった。

・本日は、計画の目標や施策体系など、計画の基本的な部分についてご意見をいただきたい。

◇事務局（伊東）

＜資料２、参考資料３、参考資料４に基づき説明＞

◆西田委員

・改定の方向は大変すっきりしていて良い。

・補助指標として分野ごとのエネルギーと原単位の目標を出すことも良い。ただ、例えば業務部門全体の原単位は様々な業種が混ざっており、自分のビルと比較することは難しい。技術的にそのような数値を設定することは難しいと承知しているが、可能であれば、大きい分野のオフィスの原単位や世帯の原単位の目標のようなものを参考に出せると良い。大きい目標と自分の使っているオフィスや住宅との対比ができればわかりやすいと考える。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・今後算定方法として利用する予定である 23 区共通のデータで適するデータがあるか確認する。可能であれば次回その状況を報告する。

◆本田委員

・資料２の「千代田区が地球温暖化対策に取り組む意義」を見ると、基本的に緩和策のことしか書かれていない。これからの施策は適応を考慮して進めていく必要があることも述べてはどうか。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・緩和策と適応策の計画を二本立てで考えているため、ここでは緩和策のことしか書いていない。成果物として一冊にまとめる際には、緩和策と適応策は車の両輪であり、両方を一緒に進めていかなければならないということはどこかに書き込む必要がある。また、計画を分けたとしても、緩和策と適応策のそれぞれの意義と関連性は述べていく必要があると認識している。計画の目標はそれぞれ明確に掲げ、緩和策と適応策の関連性や意義はまとめて書くなどメリハリをつけて表現していく。

◆増田委員

・対策優先度や基本方針にある「スマートシティ」や「スマートコミュニティ」について、他自治体でも使われているキーワードで特定の文脈が共有されている、もしくは幅広にイメージを持っているのであれば問題ないかと考えるが、一方で焦点が曖昧になってしまうこともある。例えばＩＣＴの活用推進や多様なサービス提供など、いくつかのポイントがあると思われるため、他の言葉で置き換えることもできるのではないか。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・安全なまち、強靭なまちをつくっていくというイメージでスマートシティを考えている。エネルギーを減らして低炭素化していくということは基本方針１や２で実現し、併せて安全安心なまちをつくるというイメージである。現行計画が事業を重複して掲載していてわかりにくいという指摘から、事業の重複を避けるためにスマートシティを広い解釈にしている。各委員と相談し、より明確になるようにしたい。

◆西田委員

・スマートシティの「シティ」は千代田区全体を示すのか、それとも小さい単位のコミュニティを示すのか。千代田区全体というよりももっとコミュニティを重視していくという考えがあるのか聞きたい。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・区全体のイメージである。検討の中で明確化する必要があると考えた場合は説明できるようにする。

◆西田委員

・対策優先度があるが、基本方針１から優先していくような印象を受けた。全体を見れば方針全部を優先するというように受け取れるが、そうであるのならば、４つの方針が優先されるというようなことをどこかに書いた方が良いのではないか。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・基本方針１から４の中で優先劣後するというわけではなく、これまでの検討部会における意見を参考に考え方の順番を並べたかった。まずはなるべく使うエネルギーを少なくし、次に使うエネルギーを変えていこうという考え方であり、どの方針も大切である。

◆西田委員

・確かに基本方針１と２はそのようなヒエラルキーがあるかもしれないが、３と４は別物のイメージである。

◆吉田部会長

・基本方針１と２については、エネルギー消費量を減らして、かつその上で環境負荷が小さいエネルギーに変えていくという考え方なのかと思う。基本方針１と２はどちらかというと対象としては建築、地域レベルだが、３は都市レベルの話であり、４になると千代田区外との連携や千代田区の中でもいろいろな事業者との連携などを対象にしていると考えた。優先度という言い方があまり良くないのかもしれないが、そのような位置づけで考えると良いのではないか。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・そのような趣旨である。吉田部会長から説明があったような考え方で改めて整理する。

◆岡安委員

・基本方針４のところに「オリンピック・パラリンピックに向けた取組みの推進」とあるが、他の施策の並びと少し違う。オリンピック自体も来年であり、この計画ができてからの短い期間で何ができるのか。施策に入れている意図は何か。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・資料は、現行計画に載っている施策を新計画に並べ替えたらどうなるか、加えて現段階で考えられる新規施策の分野を入れたイメージ図を示した。オリンピックの日程が延びた中で扱いをどうするか検討が必要だが、現段階ではイメージということで受け止めていただきたい。

◆岡委員

・７ページの（２）に現行計画の課題として取組みの主体が分かりにくいという記載があるが、図２の施策体系のイメージでは、どの主体が何をやるのかが分かりづらい。あくまで施策の全体像を示す方法もあると思うが、もう一つ誰がどのような対策をするのかわかりやすいポンチ絵もあって良いかと考える。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・図の中で取組主体を明確化することがこの段階では困難であったため、簡単なイメージ図を示している。今後事業を出して施策を明確化する段階でうまく表現できればと考えている。

（２）（仮称）「千代田区気候変動適応計画」の策定について

◇事務局（夏目環境政策課長）

・昨年度は、気候変動影響に関する分野について、千代田区において優先的に適応策を講じていく分野を決定した。今後は決定した分野について具体的な適応策を検討し、今年度末に計画を策定する。

・本日は、目指すべき将来像や考え方など、計画の基本的な部分についてご意見をいただきたい。

◇事務局（山浦）

＜資料３に基づき説明＞

◆三坂副部会長

・将来像などはわかりやすい言葉が入っており、ポジティブな要素も感じられる表現になっていて良いと思うが、施策体系のイメージになった途端に前向きな表現が見えてこないような要素になっている。今後施策の中で、特に指標の扱いなどでポジティブな要素を少し強化できると良いと感じた。今後施策を挙げていく中で検討してもらいたい。

・計画期間について、国の適応計画や気候変動影響評価はかなり短いスパンで見直しが進んでいる。2030 年度を目標としているが、かなり短い期間で見直していくようなスケジュール感は用意していた方が良い。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・前向きな計画になるような工夫していきたい。次回詳しく出していく予定である。

・計画の見直しは、長いスパンを考えているわけではなく、新たな情報や知見が示された場合はそれに沿って計画の改定や追加的な施策を行うなどの対応が必要になると認識している。一方で行政計画を見直す場合は手続きが煩雑になるため、悩んでいる部分もある。検証や見直しのスパンについて検討し、改めて次回以降示す。

◆岡安委員

・適応策の方向性の文言について、「気候変動による影響被害を回避・軽減するとともに、千代田区の特性を生かした、より魅力あるまちを形成する機会と捉え、積極的に施策を推進する。」とあるが、施策を推進することは影響被害を回避・軽減することであるから、並列にするのは日本語としておかしい。「気候変動による影響被害を回避・軽減することを契機と捉え、積極的に施策を推進する。」という文章の方が良い。

・将来像では「いつでも安心して」、「強く」、「魅力ある」という３つのキーワードが挙げられている。基本的な考え方も３センテンスに分かれており、１点目の「区民や区内事業者の生命、財産、生活や活動を守る」は「強く」を表していると受け止めた。２点目の「地域の価値を創造する」は「魅力ある」、３点目の「優先順位をつけて取り組んでいく」は「いつまでも」サスティナブルに実施していくために現実的な対応を取るというような立てつけであるとすれば、施策体系の優先的に取り組むという部分は「いつまでも」のヒエラルキーを作っているが、「強く」と「魅力」がどこにあるのかわかりづらい。

・関連する取組みを見ると、優先的に取り組む分野の自然災害や渇水に関する施策は「強く」、生活・健康や産業・経済は「魅力」につながる取組み、その他の分野の水環境、自然生態系、産業・経済や国民生活・都市生活は「魅力」、土砂災害や感染症は「強く」につながる取組みになると考えられる。施策や内容で「強く」と「魅力」に分けて分類や出す順番を変えると良いのではないか。

・その解釈で納得してもらえるのであれば、さらに施策体系で「優先的に取り組む分野・項目」と「その他影響のある分野・項目」の隣に「強く」する施策や「魅力ある」まちづくりに取り組む施策などのサブタイトルでカテゴライズすると、将来像・基本的な方向性・施策体系が縦軸で通って、やるべき方向が見えてくるように思う。アイディアとして提案する。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・適応策の方向性については文言の見直しを含めて考えたい。

・施策体系について、将来像と施策のつながりを明確にすることで全体として目的と対策を明確にし、ポジティブさを表現できるかもしれない。いただいた意見を参考にして検討したい。

◆増田委員

・岡安委員から意見のあった適応策の方向性の「契機として」という表現は大変わかりやすい。適応やレジリエンスの考え方の大事な部分として、厳しい状況に対する守りの側面だけではなく、一過性のことではない試練を乗り越えることで社会や地域全体として新しい挑戦、成長につながる側面があると思う。その思いを込めてもらいありがたい。

・特に熱中症や風水害に関係するところだと思うが、保育や教育に関する部分を明示的に表現する必要性はあるか。例えば熱中症について、最近、豊島区の保育園で園庭に遮光シートの日除けを設置しているのを見かけ、良い取組みであると感じた。また、一昨年、愛知県で小学生が校外活動のあとに熱中症で亡くなるということもあった。今コロナで新しい生活様式という言葉が出ているが、これはコロナに限ったことではなく、気候変動についても同じことが言えるのではないかと思っている。昔とは背景や状況、前提が異なっている。そのような差し迫った問題として強くメッセージを出していった方が良いと考える。熱中症以外についても、風水害が相次いでいるが、命を守る方法や、保育園や小学校の休園・休校の判断、行政としての保護者への連絡のあり方や避難のあり方など、新しいいろいろな難しい課題、新しいルールが求められているように思う。現場も大変混乱しているかと思われ、行政、担当者の負担が増えてきている状況かと思う。保育・教育、子どもたちに関してどのように考えたらよいのかをコメントをお願いしたい。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・子どもに関しては、計画の中で一つの対策の対象、カテゴリーとしては示すべきであると考えている。示し方は考えたい。例えば水害等が発生した場合、休校の判断等は区長を筆頭にした災害対策の会議を開いてその都度決めているのが現状である。判断基準はある程度整理されているが、どのレベルになったら何をやるかということを予め整理しておくことも対策の一つであると考えている。今後計画期間の中で整理できればと思っている。保育・教育、高齢者、障害者、介護が必要な方など、対象を明確にすることは考えていきたい。

◆岡委員

・「暑熱による生活への影響」と「熱中症」があるが、中身は同じ内容になるかと見受けられる。仮に分けるのであれば、理由を注記した方が良い。

・「可能な限り各分野の指標を設定する」とあるが、この指標とはモニタリング指標のことか。

・既存の施策の活用の仕方として、今年の６月から気象庁と環境省で熱中症警戒アラートの試行が始まっている。このような情報を活用することも一つの対策として有効である。

・第２次影響評価報告書が今年末に環境省の中環審から公開される予定である。最新の科学的知見も活用しながら今後の対策の検討の情報源として活用するのも有効である。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・「暑熱による生活への影響」と「熱中症」については施策の実態に合わせて編成していきたい。

・各分野の指標はモニタリング指標を考えている。

・熱中症警戒アラートは熱中症対策の一つのツールとして計画期間中も活用していくよう参考にする。

・影響評価の報告書については、なるべく最新の情報も反映できるようにしていく。

◆三坂副部会長

・「暑熱による生活への影響」と「熱中症」については、気候変動影響評価報告書や国の適応計画が分けている。施策としては確かに同じになるかもしれないが、国では健康の話と生活できるかどうかの行動制限などのレベルで位置づけが変わる。先ほど岡委員が発言した「強く」と「魅力」の分類も変わってくるだろう。国の動向を見ながらになると思うが、分けておいた方が良いと考える。

・第２次気候変動影響評価報告書は夏から秋にかけてパブリックコメントが予定されている。パブリックコメントの際に案が出てくると思われるため、それを参考にしつつ、今年度末に確定して公表される予定であるため、参考にしてもらえればと思う。

◇事務局（山浦）

＜事業者へのヒアリングについて参考資料６に基づき説明＞

◆三坂副部会長

・問題や課題等を拾い上げるという意味で、先進的な取組みをしている事業者だけではなく、例えば教育機関や学校、商店街などのサービス業などもヒアリングして意見を吸い上げた方が良いと考える。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・教育機関や商店街などは別途中小企業等向けのアンケートなどの実施を考えている。

◆岡委員

・緩和と適応があるが、ヒアリングする相手で変わってくる可能性もある。緩和を担当している方と適応を担当している方が異なる可能性もある。アンケートは緩和と適応を併せて一度に行うのか。

・適応と言っても言葉自体があまり認知されておらず、企業に連絡する際にはもう少し具体的な影響を出して、「この影響に対する対策を聞きたい」というように聞いた方が反応が良くなると思う。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・緩和と適応については窓口を通じてきちんと両方聞けるように整理したい。

・適応について何を聞きたいのかを明らかにして相手に当たりたい。

（３）その他

◇事務局（夏目環境政策課長）

・新型コロナウイルスの影響を踏まえた地球温暖化対策について、注意が必要な点や今後した方がよいことについて提案をいただきたい。

◆西田委員

・少なくともグリーンリカバリーの視点は必要である。経済対策などで区民や区内事業者に接触する機会があると思うが、その機会を生かして、例えば気候変動対策の情報を併せて伝えるなどもある。あとは、例えば補助金を出す際に、ＴＣＦＤなどの情報開示を求めるまでハードルを上げなくても良いが、少なくともなんらかの情報開示を求めるなどできないか。気候変動どころではないという感覚の事業者もいると思われるため、気候変動対策をしながらニューノーマルに移っていくことが重要であるということを今アピールしていく時期にある。そのようなチャンスにしてもらいたい。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・区が何かを実施する際にはその目的だけで、例えば補助金を払うのではなく、同時に他の何かも解決するような考え方で進められるものがあればやっていきたい。

◆岡委員

・他自治体から清掃員が暑い中作業をする際に、コロナ対策としてマスクをしなければならないことについて、熱中症に気をつけるにはどうすればよいかというような問合せがあった。このような生活形態の変化が今後どう影響を及ぼすのかといったところも少し視野を広げながら、適応策や温暖化対策あるいはヒートアイランド対策などを検討する必要があると考える。

◆吉田部会長

・いろいろな企業が働き方を変える動きがあるが、例えば在室人数を減らすためにオフィスを分散化させたり、テレワークを増やすことを試行する企業もあれば、一方で人数は変えずにオフィス面積を広くとるよう動いていたり、設備的に換気の容量を増やそうとしている企業もある。先ほど用途別の原単位で管理していくような話があったが、原単位を一つの基準にしていくことも難しい気がしている。企業によって考え方が異なってくることにどう対応していくかが今後課題になってくると考える。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・生活様式や働き方の変化について、まずは状況の把握からしていきたい。把握した情報をもとにどう生かすかをまた委員に相談しながら考えていきたい。

◆吉田部会長

・建築の分野で換気量の議論がある。例えば都市エリアの保育園などにおいて、周辺環境の問題で窓開け換気もできないというところがあり、そのようなところへの対応も適応策的なところでやっていく必要があるのではないかと感じている。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・保育園に限らず民間のオフィスでも窓がそもそも開けられないところが多いエリアがあるため、そこへの適応策としての対応の検討もあるかもしれない。また相談させてもらいたい。

◆増田委員

・建築について、これからは多様な形が出てくると感じている。吉田先生が言われたとおり建築分野はいろいろな条件が揃っているため原単位で比較可能だったが、その前提がいろいろ分かれてくると評価が難しくなる側面がある。車などは走行距離をエネルギー使用量で割ると燃費になるが、建築におけるパフォーマンスをどう測るかということも含め、前提や評価軸をどう揃えていくのか、比較の方法は研究課題でもある。

・テレワークが主体になると自宅の光熱水費がかなり上がる。これまでは民生家庭部門と業務部門という括りだったが、家庭部門の扱いをどうするか。

◆岡安委員

・先日川崎市で台風を想定した水害の図上訓練をサポートしたが、災害対策室はいろいろなものをコントロールしなければならず、密を避けるのは無理な状況であった。窓を開けて換気したが、本当に台風が来たときにはおそらく暴風雨で窓は開けられない状況になるということを考えると、なかなか全部を満足する取組みは不可能な状況なのかもしれないと改めて感じた。やはりそこはＢＣＰではないが、何を大事にして、他はリスクがあっても受け止めざるを得ない。おそらく災害時になったら究極の選択でやらざるを得ないのではないかと感じた。

◆三坂副部会長

・非常時や通常時でリスクを分けて考えることがすごく重要になってきている印象を持っている。究極の選択を迫られるようなことが増えてきているような気がするため、その辺を今後考え、どのような尺度で判断するのかを行政は持たなければならないような気はしている。非常に難しい選択だが、何らかの基準を設けてやらざるを得ないのではないかと思っている。

◇事務局（夏目環境政策課長）

・現時点における気候変動に対する中小企業の意識のレベルの把握やニーズ調査を行うことが望ましいと考え、例えば中小企業向けのアンケートの実施を検討したいと考えている。

・東京商工会議所は会員企業が 7,000 社ほどあるが、先日アンケートの協力を相談したところ、まとまった数のアンケートを行う場合は来年の２月ぐらいでないと協力は難しいという回答をもらった。アンケート結果は計画策定ではなく、計画期間中の検討の際に活用するということも考えられる。

・アンケートの内容については、岡委員より他団体で実施した例を紹介してもらっているため、それを参考に事務局で検討する。ある程度案ができた段階で各委員にも相談させてもらいたい。もし委員の研究にも資するようなデータや項目があれば、その際に加えてもらうことも可能かと思う。

・次回は、緩和策と適応策のそれぞれについて具体的な施策の提案をしたいと考えている。また、計画期間中、来年度以降に調査研究が必要、やった方が望ましいような事項があれば提案してもらいたい。

・具体的な施策の提案にあたり、庁内調整が必要な事項が多々ある。場合によっては時間がかかってしまい次回出せない部分もあるかもしれない。その場合はその次の回以降に出していく。

・次回の日程は、今のところ８月下旬から９月中で考えている。具体的な日程調整は担当から連絡する。

３　閉　会